

皆様、明けましておめでとうございます。昨年1月より編集委員を拝命致しました、名古屋大学の原上です。初めての大役でまだ毎回、渡邊昌彦編集主幹をはじめ諸先輩方のご指導・ご助言を頂きながら務め、何とか無事に1年が過ぎました。

1年が過ぎるのはあつと言う間で、平成31年(令和元年)も終わり、令和2年になりました。思い返せば昭和64年(平成元年、1989年)、昭和天皇が崩御されたのは私が高校3年生の時です。国民全員が喪に服し、バラエティーは自粛、消費も伸び悩み何か暗いムードの幕開けでした。そんな平成2年には山川達郎先生が日本で初めての腹腔鏡下胆嚢摘出術を、平成4年には渡邊昌彦先生が腹腔鏡下大腸切除術を施行されました。しかし、腹腔鏡手術の一般化への道は決して平坦ではなく、厳しい逆風の中で普及に尽力された諸先輩方には感謝致します。

さて、平成と違い、令和元年はお祝いムード一色でした。平成30年に保険収載された消化器癌、肺癌、婦人科癌などに対するロボット手術の適応拡大と時を同じくして訪れた令和時代ですが、内視鏡外科手術が一般化された今日、ロボット手術も比較的スムーズに受け入れられているように見受けられます。今後、益々の発展と普及が見込まれるロボット手術ですが、そのためには皆様の細心の注意が必要です。病状と己の技量を客観的に判断し、適応をよく考えることが重要です。腹腔鏡時代に起こった過去の様々な医療事故を忘れず、普及を妨げるような事故を起こさぬように気を付けなければなりません。本誌へのロボット手術関連の投稿はまだまだ多くはありません。時々見受けるのは、こんなことをロボットでやってみました、という単なる症例報告です。ロボットならではの独特な手術方法やメリットだけでなく、デメリットや注意点を隠すことなく皆の共有財産として報告頂くことを歓迎します。

本号では原著1編と症例報告10編を掲載しておりますが、原著の投稿が少ないのが我々の悩みでもあります。折角、学会発表したものは是非投稿をお願いしたいものであります。今年も本誌が皆様の日常臨床に少しでも役立つものになるよう、編集委員の一員として精進していきたいと思います。皆様の本誌への投稿を心よりお待ちしております。

(上原圭介)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第25巻 第1号) 2020年1月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体 2,800 円 + 税

2020年 年間購読料: 16,380 円 + 税 * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses@convention.co.jp (担当: 池田, 平澤, 渡部)

<http://www.jses.or.jp>

発売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 水野, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600025001000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●症例報告

食道癌における右上葉区域肺静脈分岐走行異常の術前診断の

意義岡田はるか・他 国立病院機構京都医療センター外科
重複胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 1 例田原宗徳・他 JA 北海道厚生連札幌厚生病院外科
遅発性外傷性右横隔膜ヘルニアに対し腹腔鏡下手術を施行した 1 例庄司良平・他 津山中央病院外科
左胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出直後に発症した食道裂孔ヘルニア嵌頓の 1 例山城直嗣・他 浦添総合病院消化器外科
門脈圧亢進症による人工肛門静脈瘤に対して腹腔鏡下脾臓摘出術および

下腸間膜静脈遮断術を施行した 1 例中沼伸一・他 金沢大学消化器腫瘍再生外科
腹腔鏡下に切除した小児特発性大網捻転症の 1 例夢田宣裕・他 長崎みなとメディカルセンター外科
術中嚢胞内容液を穿刺吸引し腹腔鏡下に切除した脾リンパ管奇形の 1 例狩野陽子・他 安城更生病院外科
下腸間膜動静脈瘻による虚血性腸炎に対し interventional radiology が奏功

した 1 例増田吉朗・他 下関市立市民病院外科

●手術手技

ロボット支援下膀胱全摘術後の腔内回腸導管造設術の

標準化後藤崇之・他 京都大学大学院医学研究科泌尿器科学分野

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。